

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

委員会名	都市防災システム小委員会	主 査 名：中林一樹		
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：鳴海邦碩		
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月			
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>都市防災システムの向上を目指して研究事業を進めてきた。阪神・淡路大震災以降、その教訓は全国に波及し、大都市防災の視点・手法に偏る傾向がある。そこで、都市防災システムとして「地域性」を考慮した災害対策のあり方を考究し、「地域性を考慮した震災対策策定手法」の確立を目指して活動をしてきた。そのさなか、2004 年 10 月 23 日には、中山間地域での被害に特徴的な新潟県中越地震が発生し、改めて大都市以外に地域性の重要性が再確認された。この小委員会では、同時に大学教育における「都市防災」の教材を確立するために、「都市防災システム図集」刊行WGを設置した。</p> <p>2004 年度活動計画は以下のとおり。</p> <p>阪神・淡路大震災以降の鳥取、芸予、宮城県北、十勝沖と非大都市地域での被害地震が多発し、また、東海・東南海・南海地震も危惧されている。これらの被害実態や状況を踏まえて「地域性を考慮した震災対策の策定手法」に関する考察を進めるために、公開研究会を開催する。WGでは、内部査読及び外部査読を経て、図集を刊行する。この刊行に向けて、小委員会として、建築学会大会（北海道）ではPD「都市防災の教育と視覚化」を開催する。</p> <p>2004 年度の活動は、公開研究会としては、引き続き上陸して都市水害を頻発した台風災害に注目し、被災地から会員を招いて研究会を行ったとともに、災害図集の刊行に集中し、大会ではPD「都市防災の教育と視覚化」を開催した。</p>			
委員構成 (委員名(所属)) : 委員 W: ワーキングメンバー	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> W 水越 薫 (イー・アール・エス) 長能正武 (リスクマネジメント) 中林一樹 (東京都立大学) 宮野道雄 (大阪市立大学) W 翠川三郎 (東京工業大学) W 岩井 哲 (広島工業大学) W 大西一嘉 (神戸大学) 位寄和久 (熊本大学) W 熊谷良雄 (筑波大学) 岡田成幸 (北海道大学) 糸井川栄一 (筑波大学) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 池田浩敬 (富士常葉大学) 伊村則子 (日本女子大学) 村田明子 (清水建設) W 加藤孝明 (東京大学) W 吉川 仁 (防災&都市づくり計画室) 奥田 暁 (大林組) 中浜慎司 (大成建設) W 村尾 修 (筑波大学) 川井政知 (防災都市研究所) W 能島暢呂 (岐阜大学) </td> </tr> </table>		W 水越 薫 (イー・アール・エス) 長能正武 (リスクマネジメント) 中林一樹 (東京都立大学) 宮野道雄 (大阪市立大学) W 翠川三郎 (東京工業大学) W 岩井 哲 (広島工業大学) W 大西一嘉 (神戸大学) 位寄和久 (熊本大学) W 熊谷良雄 (筑波大学) 岡田成幸 (北海道大学) 糸井川栄一 (筑波大学)	池田浩敬 (富士常葉大学) 伊村則子 (日本女子大学) 村田明子 (清水建設) W 加藤孝明 (東京大学) W 吉川 仁 (防災&都市づくり計画室) 奥田 暁 (大林組) 中浜慎司 (大成建設) W 村尾 修 (筑波大学) 川井政知 (防災都市研究所) W 能島暢呂 (岐阜大学)
W 水越 薫 (イー・アール・エス) 長能正武 (リスクマネジメント) 中林一樹 (東京都立大学) 宮野道雄 (大阪市立大学) W 翠川三郎 (東京工業大学) W 岩井 哲 (広島工業大学) W 大西一嘉 (神戸大学) 位寄和久 (熊本大学) W 熊谷良雄 (筑波大学) 岡田成幸 (北海道大学) 糸井川栄一 (筑波大学)	池田浩敬 (富士常葉大学) 伊村則子 (日本女子大学) 村田明子 (清水建設) W 加藤孝明 (東京大学) W 吉川 仁 (防災&都市づくり計画室) 奥田 暁 (大林組) 中浜慎司 (大成建設) W 村尾 修 (筑波大学) 川井政知 (防災都市研究所) W 能島暢呂 (岐阜大学)			
設置 WG (WG 名: 目的)	<p>都市防災システム図集刊行WG (主査: 熊谷良雄)</p> <p>目的: 地方における地震災害が危惧される今日、全国の大学教育における防災教育が重要な意味を持ってきている。しかしながら、都市防災を専門とする教員が全国の大学に配置されているわけではない。そこで、建築構造や計画分野でも都市防災の教育に活用できるように、「都市防災システム図集」を観光することを目的としている。</p>			
2004 年度予算	270,000 円			

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004年5月1日(小委員会・WG「図集内部査読」10名) 2004年6月5日(小委員会・WG「図集編集・内部査読」10名) 2004年7月20日(小委員会・WG「図集編集・内部査読」10名) 2004年8月29日(大会PD「都市防災の教育と視覚化」70名) 2004年10月9日(公開研究会「福井・新潟の水害と都市防災」20名) 2004年12月5日(小委員会・WG「図集編集・内部査読」10名) 2005年1月10日(小委員会・WG「図集編集・内部査読」10名) 2005年3月5日(小委員会・WG「図集編集・内部査読」10名)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) ・台風上陸にさなかに開催した公開研究会では、地震水害を通して地域性を考慮した防災対策に関する討議を進めることができた。 ・WGでは、編集・内部査読作業を学会以外でのグループで集まって作業を進めてきた。この教材を活かした防災教育にあり方を巡って、大会でPDを開催し、その議論を活かして、編集を進めたこともあり、時間を要したが、最終小委員会で「外部査読」を依頼するところまでこぎ着けることが出来た。以降の刊行に向けて、小委員会及びWGは解散するものの、自主的に刊行活動を進めていくよていである。 ・小委員会では、HPを開設したが、十分に活用できなかった。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) ・小委員会としては防災図集の刊行に向けて、WG活動を中心に進めてきた。当初計画よりも進捗がやや遅れ他が、ようやく刊行のための外部査読を依頼し、進めているところである。
その他評価すべき事項	特になし